

よりそう



2012.5.17(木)

第175号

編集責任
キヨコ 岩谷

教育支援活動 (その1)



陸前高田市上長部、この地区は震災時、地域全体が大きな被害にあってしまったところの一つです。教育支援活動は、この地区にあるコミュニティセンターを使わせてもらって、小学生を対象に行なわれています。この活動は去年の10月から始まり、2012年5月現在、今も続いています。

<活動内容>

教育支援活動、通称"みちくさルーム"。この名前は、地元のNPO団体"P@CT (パクト)"の方がつけたもので、子供たちの間でもその呼び名で親しまれています。この活動は毎週土曜日に行なわれていて、"まごころ"からは毎回7名ほど参加し、"P@CT"の現地担当者と協力して活動しています。

子供たちは毎回10人から15人くらい集まって来てくれて、多いときには20人を超す時もあります。主な内容は、まず始めに、"勉強組"と"遊び組"とに子供たちに分かれてもらい、それぞれ別々に活動します。

"勉強組"は学校で出た宿題や、こちらが用意したドリルなどで勉強してもらいます。"勉強組"に参加する子の数は多くないので、大体いつも2名ほどついて見えています。宿題の場合、問題の答えが無いため、甘く見ていると足元を掬われます

"遊び組"は、子供たちの大半がこちらの活動に参加します。天気の良い日は、外で遊んで、そうじゃない日はセンター内にあるボールで遊びます。いつもこおり鬼や追いかけっこ、ボール遊び、時には将棋やオセロなどで遊びます。先日の活動では、簡単な工作キットを用意してくれた方がいて、一緒に工作を楽しみました。子供たちは大変元気で、その無限とも思えるエネルギーには毎度圧倒されています。

<子供たちの特徴>

子供たちに共通する特徴として、感情の起伏が激しいところがあります。感情の高ぶりが激しくなりすぎて易怒的、また度を越して激高したり、抑えが利かなくなるくらいの状況になります。

その背景には、長部小学校の校庭に仮説住宅があるため、普段子供たちが集まって遊ぶ場所がほとんど無いことや、長部小学校と気仙小学校が現在仮合併という形で合同授業を行ってることなどで、普段からいストレスを溜め込んでいるのではないかと思います。

僕はそのはけ口として、あの子たちに思いっきり遊んで欲しいと思っています。それはただ単に好き勝手というのでは無く、そのエネルギーの向かう方向を上手にコントロールして示してあげる必要があります。

この活動は最終的には、地元の学童という形に持っていくのが目標です。今はその為の地固めの最中で大切な時期です。これからも多くの人の協力が必要です。

今回"よりそう"を書かせていただいたのも、少しでもわかってもらいたくて、書かせていただきました。色々書かせていただきましたが、大切なことは子供たちに自ら向かっていくことだと思います。今後も僕は、できる限り関わって行きますので、一緒に活動する時には、よろしくお願いします。

くぼっち

5/7 (木) 天気 晴れのち曇り 気温 19℃ 10℃ (大船渡) 降確率 10%

5/16(水)ボランティア活動はPM5:10から 5/16(水)の宿泊2泊。